

Festina lente



Highlights

- ・新生徒会の役員が決定しました。
- ・昨年に続き、多くの小学生が受験。
- ・WYSHの授業、とても有意義でした。
- ・生徒がつける教員アンケート結果！

第30期生徒会執行部 2014.12.22.

新年のご挨拶

理事長 成瀬輝一

明けましておめでとうございます。

年始は四、五日に中学の入学試験、二百八十九名という大勢の受験生をむかえた結果、合格最低点も高くなり、きびしい戦いとなりました。八日は三学期の始業式と、いつもの事ながら、あわただしい新年の始まりです。

いよいよ十七、十八日はセンターアー試験、IWATAコースの総仕上げ。当日の早朝、同窓会から贈られた「岩田魂！」の横断幕の下で、高校二年生たちの出陣エール、学園一体となつた出発式が行われました。この試験に立ち向かう、生徒さんたちはみな明るく頼もしい。かれらが将来、この日本を支えるのだ実感する時です。

また今年は、APU・立命館コースの一二期生たちが大学を卒業、社会にされます。グローバル社会にふさわしい人材を育てる、このコースで学んだかれらの働きに、大いに期待いたします。

さて、クスノキに囲まれた岩田のキャンパスに、建設工事が始まります。夏休みに三号館を解体し、跡地に理科室や図書室を充実させた、新しい三号館を造ります。来年四月オープンを目指に、計画をまとめているところです。使いやすい機能的な校舎にしたいと思います。本年もよろしくお願ひ致します。

理事長 成瀬輝一



↑ 中学入試 2015年1月4日(日)実施

新年のご挨拶

理事長 成瀬輝一

第30期生徒会の紹介

27年度岩田中高入試について

生徒指導部より

生徒指導主任 阿部順三

特活より～部活の報告～

特活主任 池邊和則

保健室より(WYSH)野村めぐみ

APUプレゼン大会 河野智治

カウンセリングルームより

スクールカウンセラー 林智一

授業アンケート結果

教頭 児玉洋司

寄付金募集のお知らせ

1

2

3

4

5

6

7

8



学園だより

生徒会発足の紹介

2014年12月11日の委嘱式・リーダー研修会をもって、このたび第30期岩田中学校・高等学校生徒会役員が正式決定しました。今回は、生徒会長選挙の後、執行部・専門委員長の立候補者を募り、面接等での厳正なる審査による決定です。それぞれの想いや意気込み、岩田の未来などを熱く語る姿に頗もしさを感じました。今までの学年運営委員などの経験を生かし、全校生徒で協力し合い、さらに岩田を生徒自身の手で発展させていくことを期待しています。

◆第29期生徒会長 草地 千晃くん

「これから1年間、生徒会長として任せられた事をできるのか」と不安になっていたのに、今となっては何事もなく無事に次の生徒会長に引き継ぐことができ、あつという間だったと感じます。こうしてやり遂げられたのもみなさんの支えがあったからだと思っています。この経験は一生の財産になると思うので、これから先の人生と共に大切にしていきます。

生徒会顧問 伏見 肇一郎

一年間、本当に有り難うございました。

◆第30期生徒会長 ラヒミアン ベーラドくん

この度、第30期生徒会長に就任しました、ラヒミアン ベーラドです。よりよい岩田を求め、貪欲に前進していきます。生徒会長としての使命を果たすべく、全力を尽くす覚悟です。これから1年間、どうぞ宜しくお願いします。

◆生徒会役員 名簿

生徒会長	ラヒミアン ベーラド	
副会長	白石 はるか	田崎 拓朗
庶務	東山 美由	山田 理絵
体育委員	長 田中 凜	副 清水 花萌
美化委員	長 本庄 優輝	副 右田 春萌
広報委員	長 池邊 慶	副 首藤 翼
図書委員	長 真宮 菜々子	副 得丸 亜未
文化委員	長 衛藤 航	副 那須 ゆい
ボランティア委員	長 半田 陸	副 柳 夏美
保健委員	長 本多 阿蓮	副 山野 聰子



平成27年度岩田中高入試について 事務局長 工藤紀次

平成27年度岩田中学校入学試験は、大分県下の中學入試のトップを切って1月4日(日)に筆記試験を、翌5日(月)に専願入試の面接を行いました。4日・5日とも天候に恵まれ、トラブルもなく終了することができました。

平成27年度の岩田中学校入学試験の志願者数は、昨年度の301名を超える事はできませんでしたが、289名の方々に志願をしていただきました。1月4日の一般・専願入試の筆記試験当日は活気に満ち溢れています。翌5日に、専願入試の面接試験を実施しました。合格発表は、1月6日、小雨の降る中、午前10時に校内掲示板に合格者受験番号掲示及びHP上に掲載という形で行いました。校内掲示板の前には多くの受験生や保護者が確認に来ており、喜びの声を上げたり、記念撮影したりという姿が見られました。また、静かに掲示板の前から去っていく姿もありました。

本年度の志願者数(専願+一般)289名の内訳は、県内生が272名、県外生が17名でした。県外生の中には2名の海外からの受験生が含まれております。昨年度の県外生は13名でしたから、志願者数が若干減ったにもかかわらず県外

生は増加しているというのも特徴の一つです。合格者数は、213名でした。一般入試の合格者平均点は、次の表のとおりです。国語と算数と理科は、問題作成者の予想点を上回る得点でした。国語、算数でそれぞれ10点程度高くなり、理科で2~3点ほど高く出ました。社会では反対に3点ほど低くなりましたが、合計すると20点近く予想点より点数が伸びました。合格者の平均点も同様に、昨年度より17.5点上がりました。合格者最低点も199点となり、昨年度より10点高くなりました。これは志願者が基礎的事項をしっかりと押さえていることの現れで、歓迎すべきことと受け止めています。今年の入試は、ミスを1つ2つ多く犯したした受験生が苦汁を飲んだという結果になりました。一方、岩田高等学校APU・立命館コースの入学試験は、昨年の11月10日(月)の帰国子女入試からスタートしており、既に台湾の台北日本人学校と台中日本人学校からの帰国子女2名の入学が決まっています。1月20日(火)に推薦入試を実施し、2月3日(火)に一般・前期入試、3月21日(土)に一般・後期入試を行います。推薦入試の出願者数は例年の2

倍ほどの出願があり、県外からも4名の出願がありました。推薦・一般入試で、グローバル感覚を持った人材の確保を目指したいと考えております。

最後になりますが、生徒寮を持っているのも岩田学園の特徴であります。来年度も10名以上の入寮者がありそうです。近年、生徒寮に対する問い合わせも多くなっています。今後も積極的に寮をアピールしていきたいと思います。在校生の皆さんへの入寮も、大歓迎です。

また、転入学考査を3月7日(土)に実施いたします。お知り合いに、大分へ転勤が決まったというような方がおられる場合には、お勧め願えれば幸いです。

【平成27年度中学入試結果】

中学校 受験者数

受験者数	289名
合格者数	213名

中学合格者平均点

国語	77.7点
算数	84.7点
理科	41.3点
社会	37.8点



生徒指導部より

高校指導連合会の会議で「変質者のよるわいせつ事案」が報告されています。

中央署からも注意を呼びかける連絡が入っていますので掲載します。冬も出没が予想されます、ご家庭でも注意を促してください。



女子学生を狙い、後方から近づき、身体を触ったり、抱きついたりするわいせつ事案が多発しています。この種の事案は強姦など凶悪事件に発展する可能性がありますので、被害にあわないために下記の点に注意してください。

被害にあわないための予防策

1 狙われやすい対象と防御対策

①一人歩きの女子学生

わいせつ目的の犯罪の発生は夕方以降の暗い時間帯に限らず、朝方や夕方の登下校の時間帯にも発生しており、特に一人で歩いている女子学生が狙われています。

【対策】友人知人などと複数で行動するように心がけ、一人で行動する際は遠回りでも人通りの多い道、街路灯のある明るい道を通りましょう。

②携帯電話、音楽プレーヤー

(イヤホン)を使用中の者

歩行中に携帯電話の操作に夢中になつたり、イヤホンで音楽プレーヤー等を使用したりしていると、男が近づいても気がつかないため、狙われやすい。

【対策】携帯電話、音楽プレーヤー等の機器の使用はしない。公共交通機関の乗降車時、歩行、自転車の時でも、誰かが後ろをつけていないか、女子学生を監視している者がいないか時々周囲を見回し

生徒指導主任 阿部順三

気を配る。

2 その他の対応策

【防犯機器を持ち歩く！】

犯人は騒がれるのを最も嫌がります。しかし、いざという時、日頃訓練をしておかないと大声は出せません。防犯ブザーなど防犯機器を持ち歩き、緊急の事態に備えましょう。



**不審な男を見かけた時は、
すぐに「110番！」**

“まもめーる”について

大分県警察メール配信システム“まもめーる”は、大分県警察本部及び警察署から地域の安全に関する情報を配信するサービスです。

[http://ansin-oita.jp/
seian/mls/](http://ansin-oita.jp/seian/mls/)

～最近の不審者情報～

◆不審者情報◆

1月7日前8時20分ころ、大分市横尾の路上において女子高校生が、見知らぬ男性から「大分駅までの道を教えて下さい。」などと声を掛けられ、つきまとわれる事案が発生しました。

●特徴：20～30歳位、身長170～175cm位、やせ型、色黒、二重で目がはっきりしている、上下黒色の服装

●使用車両：黒色セダンタイプ

●防犯ブザーを携帯する等の防犯対策を



心掛けて下さい。

●大分東警察署：097-527-2131

◆不審者の出没について◆

1月25日午後4時30分頃、大分市金池町の路上で、帰宅途中の小学校女児が不審者からつきまとわれる事案がありました。冬休み中で、子どもさんが外へ出る機会も多いことから、保護者の方は暗くなる前に子どもを帰宅させるなどの防犯指導をお願いします。また不審者発見の際は、大分中央警察署までご連絡下さい。中央署：097-533-2131

◎不審者の特徴：身長180cm、黒髪、黒色サンガラス、マスク着用、灰色コート、緑色長ズボン

◆声かけ事案の発生について◆

1月10日午後3時ころ、大分市羽田の路上で、下校中の男子児童が「家はどこ？一緒に帰ろう。」と男から声を掛けられる事案が発生しました。

■男の特徴：年齢20歳前後、やせ型、黒色の髪、黒っぽい服装、茶色のバッグ所持

■下校時はできるだけ複数で帰りましょう。このような人物を見かけたら中央署まで連絡をして下さい。

◆変質者情報◆

1月9日午後11時40分ころ、大分市大字政所の路上で、徒歩で帰宅中の女性が見知らぬ男から「お姉さん」と声を掛けられ、下半身を見せられる事案が発生しました。

●特徴：年齢20～30歳代、身長170cm位、小太り、短髪、黒っぽい服装

●明るい道を利用する、防犯ブザーを携帯する等の防犯対策を心掛けて下さい。

●大分東警察署：097-527-2131

(※↓登録はすぐできます。)

大分県警察では、安心して暮らすことができる、より安全な大分県を実現するために、皆さんの身近で発生する

- 子どもへの声かけ事案等発生時の不審者情報
- 悪質商法被害や車上ねらい等の事件が連續発生した際の防犯情報
- 重大交通事故等並びにその他交通関係情報
- その他、迷い子などの手配

などの情報を、会員登録をした方の携帯電話やパソコンにメール配信する

大分県警察「まもめーる」

を開始します。

12月～1月 部活の報告

Page 4

●高校女子バレー部

★大分県秋季6人制総合選手権大会

1回戦 岩田 0-2 大分ヤング
相手のコンビバレーに対応できず、残念ながら敗れてしまいました。しかし、期末考査直後の日程で練習不足の中、部員はよく頑張ったと思います。

この試合をもって岩田中・高バレーボール部は、男子校時代から続いた歴史に幕を閉じます。今まで、多くの方々に支えられて充実した活動を続けることができました。心より感謝申し上げます。

(顧問：中川真)

●高校女子テニス部

★冬季高校テニス選手権

●ダブルス

白石はるか・秋満真吏菜ペア

2-6 (2R進出)

立花汐響・生野莉緒ペア 2-6

清水萌花・高山となみペア 3-6

●シングルス

秋満真吏菜 0-6 (2R進出)

生野莉緒 2-6

立花汐響 2-6 (2R進出)

高山となみ 1-6 (2R進出)

地力の差もありましたが、勝機の見える試合もありました。1つ1つの試合でもつたないミスも少し見られ、結果としてはなかなか思うようにはいきませんでした。今回の反省点を、今後の課題として活かし

特活主任 池邊和則

でいきたいと思います。（顧問：坂井）

●高校男子テニス部

★冬季高校テニス選手権

●ダブルス

大戸琉星・岡部将人ペア

(4R進出・パート決勝で敗退)

●シングルス

大戸琉星

(4R進出・パート決勝で敗退)

岡部将人

(4R進出・パート決勝で敗退)

13, 14日と週末の大寒波の中、試合を行ってきました。寒さとの戦いもあり、

ウォームアップジャージを着用して試合が行われ、手のかじかむ中一生懸命プレイしましたが、残念ながらほとんどの選手が敗退をしました。

23日には試合に勝ち残った2名の選手が本戦出場を目指して戦ったのですが、惜しくも敗れてしまいました。実力差はほとんどなくもう少しで本戦に手が届くところまで来ていました。この経験を活かし、次こそは本戦出場を果たして欲しいと思います。応援に来て頂いた保護者の方々大変ありがとうございました。（顧問：山下）

●高校男子バスケット部

★春季九州大会予選

1回戦 岩田 45-135 大分工業

全員揃ってするべき共通理解の上での反復演習がなかなか出来ず、チームとして戦

えていないのが現状です。「ラクして勝利」出来るほど甘くはないので、どれだけ自分に厳しく・チームメイトに厳しく出来るかが今後の課題です。（顧問：野田）

●高校女子バスケット部

★春季九州大会予選

1回戦 岩田 75-45 福徳学院

2回戦 岩田 22-102 中津南

1回戦、序盤から集中してプレーができ、全員得点の快勝でした。2回戦、強豪との対戦で、シュート力の差・体力の差を痛感しました。2回戦でもっと良い試合が出来るよう、これからも更なる頑張りに期待します。（顧問：野田）

●女子サッカーチーム

1月23日に、佐伯総合スポーツ運動公園体育館にて、複数のチームと合同練習をしました。ゲームも数回する中で、これからの練習のモチベーションにつながる良い練習になりました。（顧問：河野）

●ギター部

1月7日(水)、ホルトホールにて、ギター部の定期演奏会がおこなされました。ご来場いただいた保護者・先生方、ありがとうございました。高2部員6名は有終の美を飾ることができました。ケーブルテレビで、2月の第2週から1～2週間程度繰り返し放送するそうです。

伝統の絆OB会



★野球部 12月29日

晴天のもと、昨年末も恒例のOB戦が開催されました。宗先生、池辺先生をはじめ、6回生の辰口さん、9回生の御手洗さんと21回生から26回生のOB約20名が集い、現役の部員も交えて紅白戦を行いました。1試合目はOBチームvs現役チーム、結果は0-1で惜しくもOBチームが敗れました。OBは翌日（あるいは2、3日後？）の激しい筋肉痛を覚悟した真剣勝負で挑んだので、悔しさも一入でしたが、現役野球部は勝負強いということと今後の野球部のご活躍を期待しています。2試合目は、OBが辰口チームと御手洗チームの二手に分かれて試合を行い、4-2で辰口チームが勝利を収めました。敗北した御手洗チームはペナルティとしてグラント整備を行い、OB会は幕を閉じました。

野球部OB会は毎年12月29日に行って

います。来年も開催予定ですので、OBの皆様、予定を合わせてぜひご参加ください！（2回生：河野 俊享）

★サッカーチーム 1月3日

平成27年1月3日(土)、在校生34名と卒業生22名の56名が母校岩田に集いました。11回生から32回生まで世代をこえてサッカーコートを駆け回りました。その後、入試に向けての大掃除に励みました。（顧問：河野）

★ラグビー部 (現在無) 12月30日

12月30日の午前、OBばかりになってしまったラグビー部のOB戦を実施しました。

観戦も含め20人弱のメンバーで7人制の試合になってしまいましたが、関東から、ニューヨークから、あるいは他校に転校した生徒まで参加してくれて、「ラグビーしてればどこかで逢える！」を実感しました。体型も、会の仕切りも

どんどん頼もしくなるOB達との再会が楽しみです。

★バスケット部 12月27日

12月27日(土)午後、岩田学園OB・OGを交え、交流試合を行いました。楽しくできたことはもちろんのこと、OB・OGから動き方などのアドバイスなどももらい、充実した時間を過ごすことができました。多くのOB・OGの方に駆けつけていただき、とても感謝しています。このような機会を大切にしたいと思います。（顧問：中川佳）



28回生WYSHプロジェクト

養護教諭 野村めぐみ

2学期末に28回生（高2）のWYSHプロジェクトを実施しました。

担当者：堀 寿瑞代（5年副担任）

テーマ：「大切にする」



12月18日～19日にかけて28回生IWATAコースのWYSH授業を1クラス2時間行いました。

◆ テーマ：大切にする。

◆ 授業内容：中3時の復習

(STD・中絶)

妊娠・出産・育児

望まれない性・望まれた性について28回生の皆さんと一緒に真剣に考えることができました。グループワークではもし自分に子どもが産まれたら？という設定で実際に名前を考えたり、様々な発達段階で起こりえる育児の悩みを親の立場になって考えたり、大変有意義な時間を過ごすことができました。

最後の保護者の方々からのメッセージでは涙を流すお子さんもち・・・

保護者の方々のメッセージは、温かく心のこもったものばかりで、思わず私たち授業者が感動して涙してしまう場面もありました。

今後、WYSHで学んだことを忘れずに過ごしていってほしいと思います。

28回生の皆さん、保護者の方々、本当にご協力ありがとうございました。

～授業後の生徒の感想～

●産まてくることは本当に奇跡だなと思ったし、とても感動することなどを感じました。

親だから友達と違つて笑顔じゃないときが多いけど気をつけようかなと思いました。今、生きていることに感謝です。深いことを考える時間になりました。ありがとうございました。

●最後のは泣きました。子どもを産んで、育ててと大変なことの方が多い方面、嬉しいことの方が多そうな気がしました。父と母に弟たちにもありがとうございました。

●自分たちが生まれてくるまで、生まれてからも大変だったと思うけどこんなに大切に育ててくれた家族がいるんだなあとあらためて思いました。

出産の大変さ・育児の大変さをよく知ることができて良かったです。親ってすごいなと思ったし、自分も将来子どもを産んで大切に育てたいです。

●グループで名前を決めたり、楽しかつたです。出産後、お母さんが赤ちゃんを抱いている姿は、赤ちゃんがかわいいのはもちろん、お母さんもとても嬉しそうで綺麗で私も早く母親になりたいと思いました。

親はいろいろなことがありながらもいつも愛情をたっぷりそいで大切に育ててくれているんだと再確認できました。

●まさか自分の母からのメッセージがあると思わずびっくりしました。これからは親に感謝して生きていこうと強く決心しました。

●お母さん、お父さんが、これまでとても大変だったということが実感できました。今日からお母さん・お父さんに毎日感謝の気持ちを忘れず生きていきたいです。

そして勉強や部活でケガしたり、塾で帰りが遅くなったりして迷惑をかけているし、サポートもしてもらっているので必ず夢を叶えて親に恩返しします。そして今日授業で習ったことを忘れずにすごしていきたいです。

●子どもの名前を考えるのが結構大変で自分が産まれたときにも両親はこんな思いをしていたんだなと考えると両親にも感謝の気持ちが改めて芽生え、自分の名前にも誇りを持とうと思いました。

●生まれて今ここにいることがすばらしく奇跡的なことなんだなと感じました。これからも自分を大切にしていきたいです。

~~~~~  
“ WYSH (ウィッシュ) 教育とは ”

Wellbeing of Youth in Social Happiness (子どもたちの眞の幸福) の頭文字をとったもので、その言葉の通り、すべての子どもたちが心身ともに健やかで自分らしく幸せに輝き、自分の人生を自分で切り拓いていける力を持つるようにすることを最終目標とする教育です。

↓写真：WYSH授業の様子





## 学園だより

### カウンセリングルームより～希望的リフレイン～

スクールカウンセラー 林 智一

長引く不況のあと、新たな経済施策が打ち出されてはいながらも、なかなか一般庶民にまで好況の実感は及んできません。そんな中で、人々の“希望”がどんどん失われているように感じられます。

「希望格差社会」（山田, 2004）と言われるように、日本の社会は“勝ち組”と“負け組”に二極分化してしまったようです。いったん“負け組”になると、なかなか巻き返しは難しいものです。しかも、不安定な社会状況では、いくら今、自分が“勝ち組”だと思っていても、いつ、何がきっかけで“負け組”に転（ころ）がり落ちるかもしれません。

また、昔のように“良い学校を出れば、良い会社に就職できる”といった将来への安定的なビジョンも描きにくい現状です。非正規雇用が増加し、“良い学校”を出たからといって、必ずしも自らが希望する“良い会社”的正社員になれるとは限りません。

一方では、せっかく正社員になっても中途退職する人が増えてきているそうです。企業側と社員側が求めるものとのミスマッチのせいなのか、日本の年功序列や終身雇用制が中途半端な形で崩壊した影響なのか、あるいは若者の欲求不満耐性（自分の思い通りにならない状況に耐える力）の低下のせいなのか、原因は定かではありません。

いずれにしても、退職してキャリアアップできれば良いのですが、それはなかなか難しいことです。実際には、以前よりも条件の悪い職場に移らざるを得ないことが多いのも現実でしょう。

このような閉塞感（へいそくかん）の漂う状況の中では、若者が将来への夢や希望を持てなくとも当然かもしれません。このような社会を作ってしまった、私たち大人の責任は重大です。

しかし、それでも希望を持つことは大切です。東京大学で「希望学プロジェクト」を立ち上げた玄田（2006）によれば、小中学生の頃に、将来なりたい就職希望を具体的に持っていた人のほうが、そうでなかつ

た人に比べて、やりがいのある仕事に就（つ）いた経験が明らかに多かったそうですね。

さらに興味深いことは、やりがいのある仕事に就いた人は、希望を持ち続けた人よりも、実はいったんは挫折（がせつ）しながらも、別の希望へと修正を遂（と）げた人のほうが多い、という調査結果です。

さまざまな現実的要因によって、自分の希望がそのまま実現するとは限りません。たとえば、第一生命（2014）による「大人になつたらなりたいもの」調査の結果、男子では「サッカー選手」や「野球選手」、女子では「食べ物屋さん」や「保育園・幼稚園の先生」が上位でした。

実際、サッカー選手になりたいと思って、小学生時代からクラブなどで練習を重ねている子どもたちがたくさんいますね。でも、その中で本当にJリーガーなどのプロサッカー選手になれるのは、残念ながらほんの一握りです。大人になるにつれ、自分自身の才能の限界を知り、子ども時代の希望がかなわないという現実に直面せざるを得なくなります。

大切なのは、挫折したときです。そのときに、「（挫折の）苦痛を乗り越えながら、自分が本当にやれること、そしてやるべきことを見つめなおし、軌道修正の行動をすること」（山田, 2006）が重要なのだと言われています。

つまり、サッカー選手には向いていないくとも、食べ物屋さんにはなれなくても、自分に向いた職業が別にあるかもしれない、と考えることが必要なのです。そうやってしっかりと自分の適性や資質を吟味して、さまざまな職種を模索（もさく）し、次の目標を立て、そこに向かって新たな努力を続けていけば、別のやりがいのある仕事に出会える、ということです。

このように、まず希望を抱き、そして希望→挫折→軌道修正→新たな希望…というプロセスをリフレイン（繰り返し）するとのできる人が、本当の意味で“希望を持つ人”なのではないでしょうか。1つの夢に執着しすぎるあまり、それに挫折したか

らと言って人生に絶望してしまったのでは、意味がありません。

これは、今から将来の進路を選択していく生徒のみなさまだけの問題ではないでしょう。大人だって同じですね。いくつになっても、人生は自分の思い通りになることばかりではありません。挫折しても挫折しても、決して絶望することなく、軌道修正して新たな希望を抱いて生きていける人、そんな人になりたいと、私は思います。

さて、みなさまはいかがでしょうか。あまりにも挫折の苦痛が辛（つら）くて耐えられないとか、新たな希望がなかなか見つからない、というかたもあるかもしれません。そんなときには、カウンセリングルームのことを思い出してくださいれば、さいわいです。

~~~~~

引用文献

第一生命 2014 大人になつたらなりたいもの
News Release <http://www.dai-ichi-life.co.jp/company/news/pdf/2014_032.pdf> (2014年11月21日閲覧)

- ・玄田有史（編著） 2006
希望学 中公新書ラクレ
- ・山田昌弘 2004 希望格差社会 筑摩書房



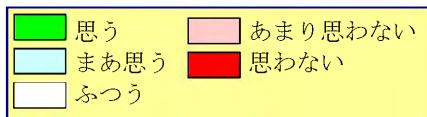
授業アンケートの実施結果～職員研修でも活用～

例年、本校では生徒が先生を評価する授業アンケートを行っています。生徒には授業を受けていたる先生一人一人に対して、8項目を5段階で評価してもらいます。

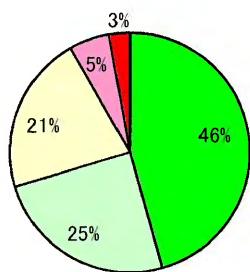
個人表には、各項目の「学年別」・「クラス別」・「男女別」の数値・%・グラフが示されます。全体表には、学年集計や教科平均（最高・最低含む）などが示されます。

個人表は合計708枚、全体表は200枚になります。(1)～(4)、(6)の項目は3年連続で上昇しています。(5)は1%ずつですが下降しています。高評価（よくわかる・わかる）の割合合計を80%にすることが一つの目標です。もちろん、「アンケート結果＝評価」と結論づけできませんが、授業力を向上させていく材料と捉え、全職員で分析・反省する研修を確実に実施します。今後更なる「わかりやすい」「やる気ができる」授業の実践に努めなければなりません。

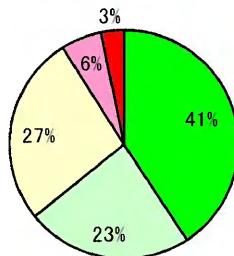
5教科アンケート結果(職員平均)



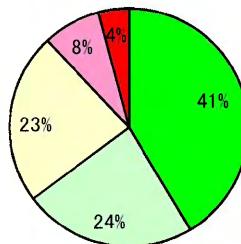
(1) 授業の説明は、丁寧で分かりやすいと思いますか。



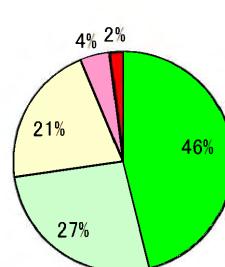
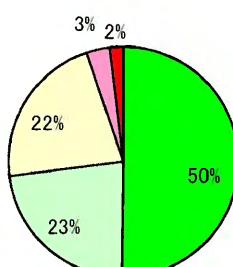
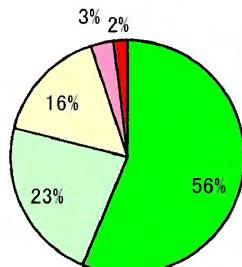
(2) 授業の進め方などが工夫された授業だと思いますか。



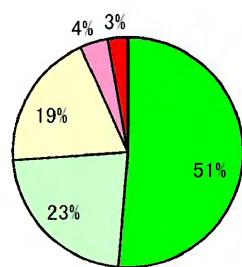
(3) 黒板の書き方(板書)は、わかりやすいと思いますか。



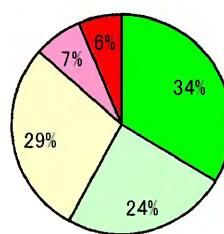
(4) 先生は生徒の質問や発言にきちんと答えてくれていると思いますか。



(7) 先生の生徒に対する接し方や話し方は、適切であると思いますか。



(8) 先生の授業を受けることで教科・科目への興味や関心は深まったと思いますか。



	5	4	3	2	1
(1)	46%	25%	21%	5%	3%
(2)	41%	23%	27%	6%	3%
(3)	41%	23%	23%	8%	4%
(4)	56%	23%	16%	3%	2%
(5)	50%	23%	22%	3%	2%
(6)	46%	27%	21%	4%	2%
(7)	51%	23%	19%	4%	3%
(8)	34%	24%	29%	7%	6%

寒くなって参りました。いよいよ受験シーズンの到来です。高3のみなさん！体調管理をしっかりして、絶好調で受験してください！応援してますよ。

↓人権研修(全職員対象) 2014/12/22



↓中学1～3年 (2015/1/7)
自主登校最終日のサプライズお汁粉



寄付金募集のお知らせ

学校法人岩田学園

学校法人岩田学園 岩田中学校・高等学校は、明治33年(1900年)岩田英子先生が荷揚町に「大分裁縫伝習所」を創立したことから始まりました。その後、昭和59年3月に女子校としての幕を閉じるまでに約四万人の卒業生を輩出し、県下女子教育の一助として学園の使命を果たしてまいりました。

昭和50年に岩田英二（故人）が理事長へ就任し、時代のもとめる「教育」と「私学の役割」を考え『学校の組み替え』にとりかかりました。その結果、「学びたいものが広く集まる学校」であり、「自学自習」を基本とし、「個性を尊重し、自分で考え、自分のことばで語れる、創造力豊かな人間の育成」をめざし、昭和58年に県下初である中高一貫6年制男子校として「岩田中学校・高等学校」を開校いたしました。

1回生はわずか25名からのスタートでしたが、学園の建学精神にご賛同いただき多くの皆様方のご支援、ご協力により、県下中高一貫校の先駆けとして、大いなる発展を遂げることができました。平成12年度(2000年)には学園創立100周年を迎え、翌年の平成13年度からは男女共学へと移行しました。

「社会に有為な人材の育成」の基本方針のもと、本校の卒業生は、医療・法曹・IT・金融・建設・教育・サービス業

等々と多方面で活躍しております。特に医療分野では、今後も大分県内の医療の一翼を担ってくれるものと各方面から大きな期待を寄せられています。

平成24年度に開校30周年を迎える、これからも学力だけではなく、「公正や正義」「人を思いやる心」を持ち、自主的で行動力のある人材を育てるという決意を新たにしております。

当学園は、大分市中心部を流れる大分川の河畔にあり、周囲を豊かなクスノキの樹林に囲まれ、校舎・生徒寮などは世界的に著名な建築家である磯崎新氏の設計によるものです。このような教育環境は、生徒の情操・感性に何らかのメッセージを与えていていると考えております。

この教育環境を維持し、更に発展させるため、寄付金を募集いたします。皆様方のご寄付により、生徒が毎日を過ごす学校の教育環境整備費及び学力定着・向上のため教育研究費の充実を計ります。

寄付金の使途

- (1) 教育研究用の施設設備の整備及び取得費
- (2) 教育研究に要する経常経費

何卒、学園の寄付金募集趣旨をご理解いただきまして、ご支援ご協力をいただけますようお願い申し上げます。

寄付金についての詳細は、事務室へお問い合わせください。

<http://iwata.ed.jp/>

ホームページやブログでCheck !

能力の差は小さいが
努力の差は大きい

脚力尽くる時、山更に好し。
輝ける未来へ、全力でサポートします！



January 2015

大分市岩田町1-1-1

学校法人岩田学園

電話 097(558)3007

Fax 097(556)8937

Email iwata@iwata.ed.jp



21世紀の有為な人材を育成する
岩田中学校・高等学校